

「金属細線を用いたタッチパネル用センサフィルム」  
事後評価結果について

産学共同実用化開発事業評価委員会  
委員長 田井 一郎

本新技術の開発結果は下記の通りであり、成功と評価するのが適当である。

記

本開発は、透明フィルム表面に数 $\mu\text{m}$ 幅の金属細線のセンサ電極を形成する技術を用いて、次世代ディスプレイには必須となるフレキシブル化、曲面化、大画面化に対応可能なタッチパネル用センサフィルムの量産化を実現するものである。

本開発の成否認定基準は、量産時のコスト競争力と信頼性に必要な条件、顧客の要求に基づく条件、及びタッチパネルとして正常動作すること、が規定されており、それぞれ達成出来ていることを確認した。

既に顧客候補から技術的要求仕様を入手し対応を始めており、事業化に向けて進むことは確実であると考えられる。顧客候補との接触に対応して早期の事業化見通しを立て、自己資金の投入に踏み込んで開発をスピードアップし1年前倒しの計画で開発目標を達成しており、プロジェクトマネジメントとしても評価できる。

ただし、外部に対して技術ライセンス供与を行なう場合は、知財戦略やビジネスモデルを慎重に検討し、コア技術を流出することのないように十分注意を払う必要がある。

本結果は、印刷技術によって数 $\mu\text{m}$ レベルの金属細線をフィルム上に安定して形成することに成功したもので、今まで期待されつつ量産化が進展していないプリンテッドエレクトロニクス分野にブレークスルーをもたらす可能性が高く、画期的な成果と言えるであろう。

以 上